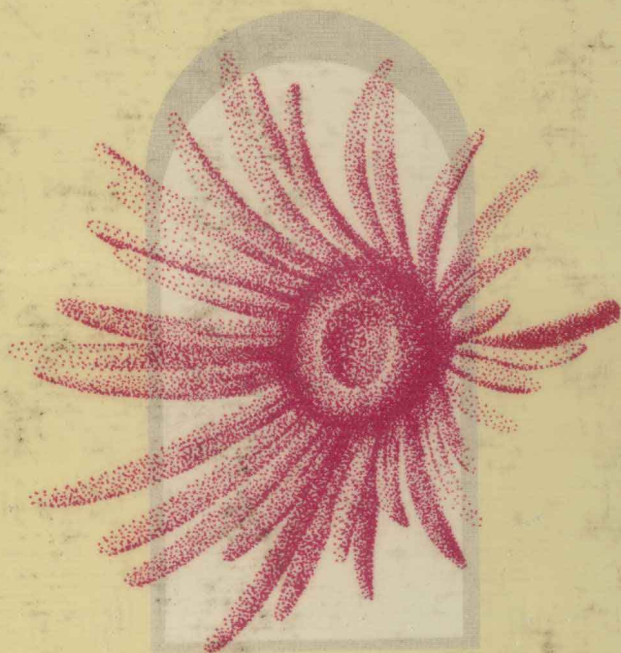


心のふれあい、

愛と友情に
ついて

藤田恭平



●君たちの未来のために●

2

●君たちの●
未来のために

2

心のふれあい、愛と友情に
ついて



藤田 恭平

藤田 恭平
心のふれあい
偕成社 1972
261p 20cm(君たちの未来
のために 2)
〔分〕158 ○

(基本カード記入例)



こころ
心のふれあい(愛と友情について)
君たちの未来のために 2

一九七二年六月五日 第一刷発行

著者 藤田 恭平

発行者 今村 広

印刷 新興印刷製本株式会社

発行所 偕成社

東京都新宿区市ヶ谷砂土原町三の五十二番
振替 東京一三五二番
電話 東京(〇三)二六〇—三三二番(代)

乱丁本・落丁本はおとりかえいたします。

中 はじめに

藤 田 恭 平

みなさんは、困った問題がおきたとき、だれに相談をしますか？ たぶん、先生やお母さん、お父さんと答える人もいるでしょう。でも、ある調査によると、もっとも多い答えは「友だち」だそうです。

私は、学校の先生や父母ではなしに、みなさんが、「友だち」に相談するというのは、きわめて健全だと思うのです。

ただ大事なことは、みなさんに、安心して相談できる「友だち」がいるかどうか、親身になって相談にのってくれ、いっしょに心配して考えてくれる「友だち」がいるかどうか、ということです。

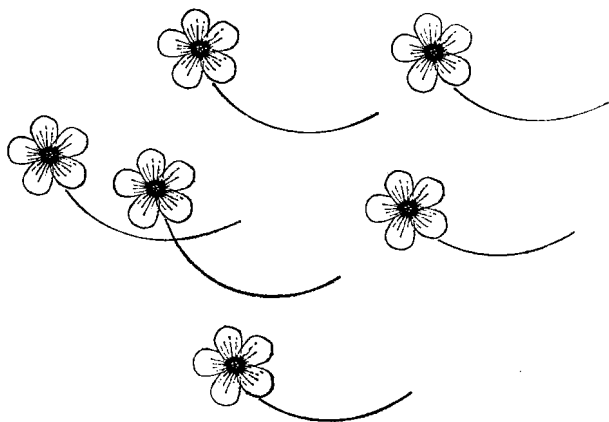
また反対に、みなさんが「友だち」から相談をうけたとき、みなさん自身が、いっしょになって考えてやる「友だち」になれるかどうか、ということです。

友情とは何か？ あらためて聞かれると、みなさんは答えに困るでしょう。「真実の友情とは何か」を求めて、私もみなさんといっしょに、この本の中で考えてみたいのです。

もくじ

1 友情ゆうじょうって何なんだろう

ある登山 とぎんけい 計画 けいかく	8
友だちがほしい.....	11
助けあうことなのか.....	16
交換 こうかん 日記 にっき	21
男の子と女の子.....	28
女はだめなのか？.....	32
T子のひと言 こと	37
人間的な経験 けいけん	43
受験 しゅけん と孤独 こどく	45
男女間の友情.....	51



2 友だちと友情 とも ゆうじょう

ぼくらの幼児期……………55

いじめっ子……………60

岡庭さん おかだに の詩……………64

同級生 どうきゅうせい であること……………72

○友人の意味……………76

人間的誠実さ じんげんじつじ……………79

ひきょうなやつ……………87

いやな先生①……………92

いやな先生②……………97

3 友情と同情 ゆうじょう どうじょう

同情心 どうじしん とは……………103

どんぐりの背くらべ……………110

好かれる人々ときらわれる人々……………116

適当なつきあい、うわべの人……………121

虚勢をはる……………125

風評と真実……………129

今日は昨日のくりかえしではない……………133

刮目してあいまみえる……………140

4 友情と恋愛

ゆがめられた異性の見方……………143

きびしい男女の差別①……………146

きびしい男女の差別②……………151

異性との友情の可能性……………157

すぐれた異性を知る①……………160

すぐれた異性を知る②.....167

男女共学の意味.....169

友情と恋愛のちがい.....172

5 知っておきたいおとなの社会

おとなの社会では.....180

連帯の大切さ.....185

おとなのつきあい.....190

みなさんの両親は？.....193

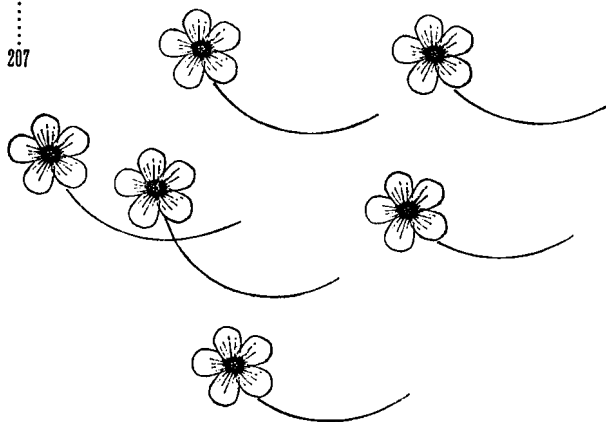
ひとり立ちできる人.....197

親戚の人・近所の人.....202

社会のうつりかわりと人間関係.....207

タテとヨコのつながり.....213

ガンコおやじ.....217



6 うその友情・ほんとうの友情

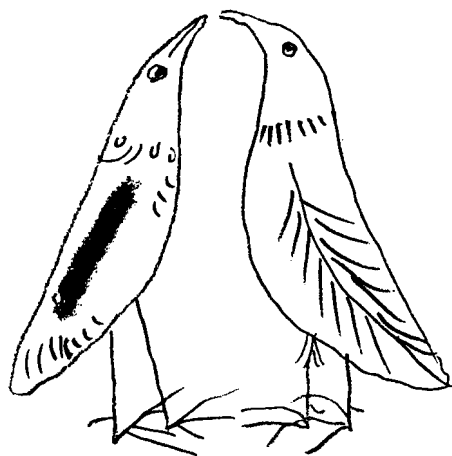
友情のひろがり……………	219
せまいグループの交友……………	224
あるしごき事件……………	230
孤独に耐えられる強さ……………	235
二年間かけた友情……………	239
ほんとうの友情をもとめよう……………	248
『走れメロス』について……………	252

装 本
口 装
さし 絵

辻 村
佐 藤
益 忠
朗 良

心^{こころ}
の
ふ
れ
あ
い
（愛と友情について）

藤
田
恭
平



1 友情って何だろう



✽ ある登山計画

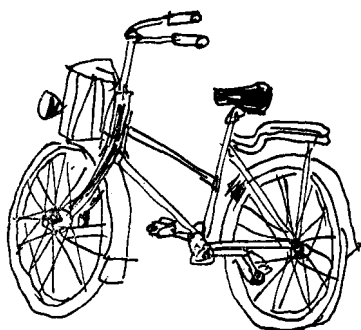
太平洋戦争がはじまるまえの、私が中学二年生の夏休みのことでした。

私は愛媛県の新居浜中学校の生徒でしたが、私をふくめて友人三人で、別子銅山を越え四国山脈を越えて、二泊三日ぐらいの予定で、高知市までぬけるルートを踏破しようという計画をたてました。

そのとき、みんなは、朝早く、私の家にあつまってから出発する約束をしました。

ところが、その日のその時刻になっても、ひとりの友人がやってこないのです。

どうしたのかと気をもんでいると、その友人の姉さんが、自転車でかけつけてきました。彼の家から私の家までは、八キロほどあるのです。



姉さんの話では、彼はきょうを楽しみに準備をととのえ、食糧なども買いこんでいたのに、昨夜から急に発熱して起きられなくなった、約束を破ってもうしわけないので、自分がかわりにあやまりにきた、というのです。

そして、これは、せっかく弟が買いこんできた食糧だから、ふたりでもっていつてくれということでした。

私たちは、そのかんづめ類などをありがたくいただき、帰ってきたら山のようなすなどを話すからといって、勇躍ふたりで出發しました。

単に、約束を守ることという徳目からいえば、この友人はやはり、約束を守れなかったわけです。

だが、彼のことを、私は不誠実だとは思いませんでした。彼が約束を守れなくなったのは、発熱という一種の不可抗力によるものであって、彼の自発的な意志からではないからです。

しかも、自分が約束を守れなくなったことを、早く私たちに知らせようとして、姉にたのんで、自転車でも走ってもらったわけです。

この姉さんも、弟のたのみの意味がよくわかったのでしょう。早朝の

八キロの道をかけつけてくれました。これは、人間としての誠実さだと私は思います。

この場合、不誠実な人間だったら、どうだったでしょうか。

——病気で行けなくなったんだから、しかたがない。八キロも離れているのだから、わざわざ知らせに行くこともあるまい（私の家にも彼の家にも、当時はもちろん、電話などはありませんでした）。ほったらかしたって、いいだろう。——

と、こんなふうに考えたかもしれません。そして、もし、そのようにしていたら、どうなっていたでしょうか。

私ともうひとりの友人とは、約束の時刻をすこしのばして、待ったにちがいありません。が、そのうち、待ちきれないで出発したでしょう。そして、山から帰ってきてその友人に、どうしたんだ、と当然わけを聞くでしょう。すると友人は、熱が出て行けなかったんだ、と説明するでしょう。

しかし、そうなるからでは、熱が出たということさえ、うそのいいわけのように聞こえるでしょうし、私は彼にたいして、不信感をいだくようになったかもしれません。

ちょっとした約束だからといって、軽く考えてはいけません、反対にまた、なんでもかでも、約束を守らないのは許せないと考えるべきではありません。

この場合の「人間的誠実さ」とは、まず相手の立場に立ってものを考え、自分でやろうとしてできることは、最大限の努力で、やってみるということだと思います。

❖ 友だちがほしい

友情^{ゆうじょう}というのは、いったい、どういうものなのでしょう。

友情^{ゆうじょう}とか、友人^{しんゆう}とか、親友^{しんゆう}とかという言葉は、学校の先生方のお話のなかにもしばしば出てくるし、みなさん方同士の会話のなかでも、しばしば使われる言葉であるはずです。

ところが、いざあらためて、友情^{ゆうじょう}とは何か、などといわれると、みなさんは、どう答えていいのかわからず、ほんとうに困^{こま}ってしまうようです。

私は昭和四十五年の十月に、以前^{いぜん}から知り合いの東京都文京区立第三中学校の中島源房先生におねがいして、中学三年生のみなさんに、友情^{ゆうじょう}について、考えていることや感じていることがあれば、なんでもいいから、書いてもらっていたきたいとたのみました。

三年生の男女生徒^{せいたく}八十三人が、感想^{かんそう}を書いてくれましたが、私はそれをくわしく読んで、

じつにさまざまなことを、知ることができました。

わずか八十三人の生徒の作文を読んだだけで、すべての中学三年生の考えをおしはかるのは、無理かもしれませんが、この学校は、いろいろな生徒のいる区立の中学校だということを見ると、いまの中学三年生のだいたいの姿が、これらの作文に表われていると見て、それほどまちがいでないだろうという気がしています。

私が、文京三中のみなさんに、作文を書いてもらったのは、私自身が中学生の考えを知りたかったからです。

なぜ知リたかったかという、私が勝手に自分の考えだけをどんどん書き進めていってしまつては、おとなとして考えている友情についてだけ書くことになったり、自分の思い出だけを書くことになったりするおそれがあると考えたからです。

つまり、みなさんの考えと、かけはなれてしまうことになりはしないかと、おそれたからです。

私はみなさんの考えていることを、よく知ったうえで、私自身の考えを、この本のなかに書きたいと考えているのです。

*

*

中学三年生八十三人の作文を読んで、私がまずだいたいちに感じた強い印象は、中学の三年になっても、友情を知らない生徒が、非常に多いということでした。

作文のなかから、いくつかの例をあげてみましょう。

「友情とは何か、私にはよくわからない。友情とは、人が困っているとき、まよっているとき、そんなときに助けてくれる、それが友情なのか？」（女子）

「今日、現在において、私は、友情というものに、まだ、お目にかかったことがない。なぜ、友情というものに会わないか？ 自分でも、さっぱりけんとうがつかない。」（男子）

「ぼくは、真の友情というものに、出会ったことはありません。だいいち、友情とすることがどのようなことも、あまりよくわかりません。」（男子）

「これだと思う友情は、いまのところはない。友情、友情とかるがるしく口ばしる人はたくさんいる。でも、めったに芽生えるはずがないと思う。」（男子）

「ぼくには、真の友情というものはわからない。ぼく自身の周囲には友情がないのか。それとも、ほんとうはあるけれども、自分で気がつかないのか。それよりもぼ

くには、真の友情という意味さえわかっていない。」(男子)

「私にはわからない。友情自体、まったくいいほどわからない。ただひとつ、わかっているのは、友情には真の友情というものがあることだけ。しかし、その真の友情がどういうものかも……わからない。」(女子)

「いまこのクラスに、友情をもっている真の友人がいるかと聞かれると、考えこんでしまう。一時間も二時間も考えこんでしまう。ふと心がさびしそうに、『友人、友だち、友情、真の友情がほしい』とつぶやく。」(男子)

「私は、この三年間、友だちとつきあってみて、『これがほんとうの友情なのか?』なんて思ったことがない。すこしだけ『友情だな』と思ったことも、一、二度ぐらいしかない。」(女子)

「ぼくのいま持っている友だちのなかで、真の友情で結ばれている友はいない。ただ、表面でつきあっているだけである。また、ほんとうの友情で結ばれている人は、たいへんすくなくとぼくは思う。」(男子)

「友情とは、私にはまだわからない。遊び友だちはたくさんいるが、ほんとうの友だちはまだいない。遊び友だちとの関係は、友情とはいわないと思う。」(女子)